

2026年9月18日

北海道興部町
公益財団法人イオン環境財団

9月26日（土）第3回「北海道興部町植樹」を実施

350名のボランティアの皆さまと3,000本を植樹

北海道紋別郡興部町（町長 裕一寿 以下、同町）ならびに、公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田 元也 イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長 以下、当財団）は、9月26日（土）に「第3回北海道興部町植樹」を実施します。

当財団は、1990年の設立以来、自然災害や伐採などで失われた森林の再生、防災林の再生気候変動課題の解決等を目指し、世界各地のボランティアの皆さまと植樹を行っています。北海道においては、2002年から知床で開発跡地の生態系再生を目的に植樹を開始し、2004年の台風18号で被害にあった支笏湖周辺や、2021年北海道胆振東部地震の震源地であり被害が大きかった勇払郡厚真町で植樹を実施しています。

同町では、オホーツク海の潮風が農業・酪農に影響を与えていたため、1959年より防風林植樹が実施され65年が経過し、防風林の更新が必要とされています。2024年、当財団は同町・オホーツク中央森林組合と「持続的な防風林の保全」を目的に協定を締結しました。本協定に基づき2024年より、宮下地区の防風林約3ヘクタールを更新する5年計画をスタートし、2年間で地域ボランティア600名の皆さまと6,000本のトドマツを植樹し、本年は350名の皆さまと3,000本を植樹します。

今後も、ひとつしかない地球を次代へ引き継ぐため、植樹をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時	2026年9月26日（土） 11:00～12:30		
場 所	北海道興部町宮下地区トドマツ防風林（興部町字興部1251番地の6）		
本 数	3,000本		
参加者	350名		
樹 種	トドマツ		
主 催	興部町・公益財団法人イオン環境財団		
協 力	北海道・オホーツク中央森林組合・イオン北海道株式会社		
出席者	北海道水産林務部 森と海の未来づくり	推進監	近藤 将基 様
	北海道オホーツク総合振興局 西部森林室	室長	村下 雅裕 様
	オホーツク中央森林組合	代表理事組合長	野呂田 厚司 様
	興部町	町長	裕 一寿
	イオン北海道株式会社	代表取締役社長	小寺 博之
	公益財団法人イオン環境財団	シニアマネージャー	新田 悟

以 上

【本件に関する問合せ先】公益財団法人イオン環境財団 E-mail: ef@aeon.info

担当：新田・天野

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（当財団名誉理事長 イオン株式会社 名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として1990年に設立されました。以来「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4つの事業活動を中心に活動しています。
現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

当財団は、万里の長城での植樹をはじめとする植樹活動を国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに継続実施しています。当財団の植樹を含むイオン全体の植樹本数は1991年から累計約1,287万本（2026年2月末時点）となります。

【北海道における植樹活動】

■ 2002年～2006年 知床

北海道斜里郡斜里町は1977年、乱開発の危機に晒されていた知床の開拓跡地を買い取り植樹してみどりを回復させることを目標に「しれとこ100平方メートル運動」を全国に呼びかけてきました。当財団はこの運動に賛同し、2002年から2006年までの5年間で、のべ1,610名のボランティアの皆さまと累計9,000本を植樹しました。

■ 2007年～2011年 支笏湖

北海道千歳市支笏湖では2004年の台風18号による樽前山麓の森林被害は、道内最大規模(当時)となりました。この地を命はぐむ森に再生すべく、5年間で、のべ5,203名の皆さまと累計39,600本を植樹しました。また2008年6月には、G8北海道洞爺湖サミットと並行して開催されたユースイベント「J8サミット」に参加

する子どもたちとイオンチアーズクラブ*のメンバーの合計約100名が植樹活動を実施しました。

*イオン チアーズクラブ:公益財団法人イオンワンパーセントクラブ主催の全国の小学生から中学生を対象としたもので自然や社会について学ぶ体験活動を行っています。

■ 2012年～2014年 むかわ町

北海道勇払郡むかわ町では森林が約8割を占め、豊かな自然を利用した農林水産業が主な産業であり森・川・海のつながりを活かしたまちづくりを目指しています。近年、山間部の森林荒廃が進んでいたことから、「魚つきの森を守ろう」と、森を守ることで川を守り、そして海を守るべく3年間で、のべ1,735名のボランティアの皆さまと、累計16,000本を植樹しました。

■ 2015年～ 厚真町

北海道勇払郡厚真町では、基幹産業である農業の水資源を安定的に確保するため、水源涵養機能が著しく低下した厚真川の上流部に位置するレジャー施設跡地を中心に、2015年から3年間に、のべ1,830名で計16,400本の植樹を実施しています。また、2021年北海道胆振東部地震によって大きな被害を受けた吉野地区には、エゾヤマザクラ・ヤエザクラを30本植樹し、2022年からは幌内地区に1,700本のエゾヤマザクラを植樹し、本年は10月10日に同町幌内地区にて植樹実施予定です。

■ 2019年～2021年 南富良野町

北海道空知郡南富良野町は総面積の約9割が森林の自然豊かな地域です。2016年の台風10号による空知川の河川増水で甚大な浸水被害が発生しました。当財団と町は災害から地域を守りみどりあふれる森の再生を目指し、3年間で、のべ650名のボランティアの皆さまと、累計7,000本を植樹しました。



2025年興部町



2023年南富良野町